

派遣留学生帰国報告書

記入日	2022/9/26
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科

1. 留学先について

留学先大学名	ライプツィヒ大学							
留学先所属学部等	経済経営学部							
留学期間	出発日	2022/9/8	入学日	2022/10/1	修了日	2022/7/31	帰国日	2022/8/1
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	その他()					
	通学時間	10分					On campus	
	通学方法	路面電車						
	居室スペース	個室	(2)	人部屋	その他()			
	共有スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="checkbox"/> キッチン	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ		リビング	その他()	
食事	自炊	90 %	学食	5 %	外食	5 %	その他	() %
保険	海外旅行保険(名称)	JTBTータルサポートプログラム Gプラン						
	留学先国・大学指定 の保険(名称)	なし						<input type="checkbox"/> 加入必須
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		フランクフルト(飛行機)			⇄ ライプツィヒ(電車)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	130万 円								
出どころ									
自費	<input type="checkbox"/>	貯金	円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	5万 円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/>	親	125万 円	<input type="checkbox"/>	家族・親戚	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/>	JASSO	円	<input type="checkbox"/>	その他名称()		<input type="checkbox"/>		円
その他	<input checked="" type="checkbox"/>	その他(DAAD STIBETプログラム)							円

2-1. お金の管理方法

渡航時	現金	30ユーロ	その他(閉鎖口座に振り込み)	10332ユーロ
留学中	海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	その他(閉鎖口座から月々お金が振り込まれる)	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	ライプツィヒ大学のホームページに、振込先情報があるので、そこへ振り込む
住居にかかった費用	渡航後、Studentenwerk Leipzigに自分の口座番号を渡し、毎月自動で引き落とししてもらう。
その他	主に、閉鎖口座から毎月振り込まれるお金で生活した。ときどきクレジットカードに頼った。

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			約10万	円
JTBトータルサポートプログラム(海外旅行保険・危機管理サービス)			約20万	円
その他の保険料		なし		円
査証・在留許可証	ユーロ	100	13,000	円
住居	ユーロ	2,970	38万	円
光熱費		住居費に含まれる		円
食費	ユーロ	3,000	39万	円
通学に要する交通費		学期料金(Semester fee)を払えば無料		円
教科書、教材費		なし		円
その他大学に支払った経費	ユーロ	510	66,000	円
その他(生活用品)	ユーロ	1,200	16万	円
その他()				円
その他()				円
その他()				円
その他()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
1 Stadtentwicklung und Bauwirtschaft	正規	10	<input checked="" type="checkbox"/>	有	無
2 Lexikologie	正規	0	<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
3 Mathematik 1	聴講	0	<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
4 Datascience – Fundamentals and Applications	正規	10	<input checked="" type="checkbox"/>	有	無
5 Grammatik B1	正規	3	<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
6 Phonetik B1	正規	3	<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
7 Schreiben B1	正規	3	<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
8			<input type="checkbox"/>	有	無
9			<input type="checkbox"/>	有	無
10			<input type="checkbox"/>	有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

ライプツィヒ大学と、Studienkollegとでは登録方法が異なる。ちなみにStudienkollegは、ライプツィヒ大学とは違う場所で、ドイツ語そのものを学習できる場所で、留学生のために開かれている。ライプツィヒ大学の授業は、事前にAlmawebというサイトで、取りたい授業の目星をつけておき、学期が始まる前に、担当教授にメールで登録可能か聞き、可能なら教授もしくはそのアシスタントの人に学籍番号を提示して、登録してもらおうというシステムになっている。Studienkollegの場合は、別で専用のサイトがあり、そこにログインして、指定された日に、自分の受けたい授業をオンライン上で自分で登録する。この日にちは、大体学期が始まる日の前、もしくは後の週である。事前に確認しておくとい。

3-2. 授業内容、方法に関して

コロナウイルスの影響で、オンラインと対面両方可となっていた。冬学期では、私はプレゼンのある授業にでて、学期末にプレゼンをした。夏学期は、最後Klausurと呼ばれる筆記試験で、成績がつく授業にでた。

3-3. 語学力について

B1に達するか達しないかのレベルで渡航した。前半は、Studienkollegで授業を受け、あとは日本学科の人とタンデムパートナーになり、会話を練習した。その甲斐あってか、冬休みあたりから、ドイツ語の本が割と読めるようになった。後半は、タンデムはあまりやらず、Studienkollegにも通わず、自分の興味のある本を色々読んだ。最終的にどのレベルに達したかは分からないが、自分の銀行口座にトラブルがあった際、銀行へ1人で行き、指示を仰ぎ、問題解決出来たので、たどたどしくならネイティブと会話できる程度にはなった。

3-4. 図書館など学内施設について

市内にいくつか大学図書館が存在する。メインキャンパスの図書館と、Albertinaと呼ばれる大きい図書館のほか、日本学科のある建物の地下に日本語の本がある図書館もある。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

Str. des 18. Oktoberという通りにある学生寮(Studentenwohnheim)に住んでいた。家賃は月270ユーロ、2人で住むタイプ。始めにいたイタリア人が、入居後1ヶ月くらいで引っ越したので、冬の間は1人で住んでいた。後半中国人と同居していた。コンロが電磁波のタイプだったので、フライパンなどもそれに対応しているものを買った。水道水は普通に飲める。風呂場は、シャワーとトイレが併設されていた。トイレトーパーはトイレに流せる。ベッドの骨格と、マットレスは既に配備されていた。なので、掛け布団、枕および、マットレスカバーを追加で買った。3階に住んでいて、夏が近づくと虫が入ってくるようになった。虫対策として窓用のネットを買い、設置することができる。騒音は、たまに週末騒いでいる声が聞こえてくるくらい。平均的には静かな場所だった。暖房がしっかりとついているので、冬は全く寒くないが、クーラーはなく、夏はまあまあ暑い。靴は、同居人と相談し、玄関で脱ぐようにした。

4-2. 食生活について

私は、ほとんど毎日自炊をしていた。単純に外に食べにいくのが面倒だったからだ。主にパスタ系の料理を作っていた。

ただ、ふつうは学生食堂を利用した方が安く(一食3ユーロ前後)、バリエーション豊かな食生活を送れる。あとは、Dönerと呼ばれるケバブ屋が町のいたるところにある。5ユーロくらいでケバブが食べられる。

Milch Reisが日本の米に似ている。

先ほども書いたが、水道水が飲める、わりとおいしい。市販のものは、炭酸が入っていることが多い。

最悪、スパゲッティの麺をゆでて、トマト缶と塩を入れれば即席でそれらしい料理が作れる。留学当初、何を食べていいかわからないときはそうした。

アボカドにごま油と塩を加えて食べるとおいしい。

Ovomaltineという、パンに塗るチョコランチみたいなものおいしい。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

スマホは、手持ちのものをsimフリー化して、現地のAldi talkというsimカードを入れて使っていた。3GBで月7ユーロ程度だった。それほど高くない。

寮には、インターネットが配備されていた。しかし初期設定のために、LANケーブルと、LANケーブル⇄USB変換アダプターが必要で、現地で購入した。これは日本でも買えるので事前に買っておいた方がよい。この回線の利用料は、あらかじめ家賃に含まれていた。

4-4. 服装について

ドイツでは、大雨はなかなか降らないが、パラパラとした小雨が不規則に降ることがある。したがって、傘というより、フード付きの防水性の上着を重宝する。あれば何かもっていくとよい。

また冬に関していうと、ドイツの冬はとても寒いので、気を抜かず、インナーからアウターまで、しっかりと防寒着が必要だ。とくに、ライプツィヒだけで生活するならまだ問題ないかもしれないが、往々にしてクリスマスなどに、友達の家(田舎の方)や、その他の町へ行くということもありえる。当然、都市より田舎の方が段違いに寒いので、ライプツィヒ外のドイツも想定して、服装を用意するほうがいい。具体的には、ヒートテック上下、長袖、セーター、分厚いダウンジャケット、マフラー、ニット帽、手袋、長ズボンなどなどだ。私はユニクロのダウンジャケットを着ていったが、ドイツ人に薄すぎると言われた。日本でよいものが見つからない場合、最悪ドイツに来て冬が来る前に防寒着を買うのもひとつの手だ。ちなみに、私の意見では、カイロはなくてもよいと思った。また靴は普通のスニーカーでも問題なかった。

4-5. 健康管理について

どういうわけか、全留学期間を通して健康だった。コロナはおろか、一回も風邪を引かなかった。怪我もしなかった。ドイツの暖房が優秀で、部屋にいる限り全く寒くないというのは一つの要因だと考える。また今年は、マスク着用が義務で、例年に比べ風邪がはやりにくかったのも事実だ。

なので、申し訳ないがアドバイスはできそうにない。

薬はほとんど使わなかったが、日本から市販の風邪薬と整腸薬を持って行った。

4-6. 保険、危機管理サービスの利用について

特に、病気や事故、犯罪などに巻き込まれなかったので利用しなかった。

4-7. 課外活動について

特になし

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

千葉大学の日本語の授業に、手伝いとしてZoomで参加していたとき、ひとりのドイツ人と知り合うことが出来た。彼はオンライン留学ということで、ドイツ国内から同じくZoomで授業に参加していた。

また、ライプツィヒの町を歩いていた際、日本語が話せる留学生のグループに遭遇し、仲良くなった。こんな形で知り合いができるとは思っていなかった。

あとは、千葉大学のLEX(外国人と互いに言語を教えあう制度)で知り合ったドイツ人と、留学中もタンデムをつづけた。

4-9. 日本から持参してよかったもの

飛行機内

サンダル 靴を脱いでサンダルをはくとかなりリラックスできる。

耳栓orノイズキャンセリングイヤホン 飛行機のエンジン音がうるさいので、これらがあると便利

ドイツについてから

タッチ式のVISAカード タッチ式でないと、スキャンにいちいち時間がかかり、買い物が面倒。これからクレジットカード作る人は、非接触型決済の機能があるカードを作るとよい。

有線LANケーブルと、LAN⇄USB変換アダプター これらがないと、寮のWifiを設定出来ない。

プラグ変換機 現地では、EUから日本のプラグへの変換機は、手に入りづらい。あらかじめ数個日本で購入し持っていくべき。ちなみに、電圧変換機は特に必要ない。PC、スマホなどはあらかじめ幅広い地域の電圧に対応していることが多い。

小旅行用のカバン

現金できれば数百ユーロ 現地で銀行口座を開設して利用できるようになるまで、少し時間がかかるので、現金でお金を持っていか、国際キャッシュカードか何かをもっていると焦らずに済む。クレジットカードももちろん重宝するが、キャッシングに上限額があるので、クレジットカード以外で、何か現金引き出しツールを持っておくと安心。

フード付き防水ジャケット 現地では大雨はあまりふらず、代わりにパラパラとした小雨が唐突に降ることが多い。したがって、傘よりこうしたジャケットの方が、即座に対応できて便利。

ノートと筆記用具 意外と盲点だが、日本の文房具は役に立つ。現地のノートは、大きい上に一冊で300〜くらいするので高い。筆記用具も、日本ほど充実していない。事前に買っておくとよい

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

登山靴 冬本当に寒いときは必要かと思っただが、わりと日本の靴でも問題なかった。

有線LANを無線化する機器 現地の規格に対応していなかった。もしWi-Fi無線化したい人は、現地のもを購入すべき

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

ドイツは、はっきりと意思表示をする文化の国だ。相手の質問が聞き取れないなどで、困ったそぶりをみせても、察して助け舟をだしてくれたりはない。自分のほうから、聞き取れなかったと言葉に出して言う必要がある。言葉が発せられるまで、気まずい時間が継続してしまう。間違ってもいいのでとにかく何かを言葉で伝えようとするのが大切だ。

鼻をすするのは、ドイツ人に強い不快感を与えてしまう。ただ、鼻をかむのは全く問題ない。図書館のなかであろうと、時々彼らが強く鼻をかんでいるのを耳にする。鼻水がでたときは、すするよりかんだほうがよい。

ビールの乾杯(Prost)をするときは、相手の目を凝視するくらいしっかり見る文化がある。一説によれば、乾杯の最中に飲み物に毒をもらせないためだとか、..

げっぷは本当はあまりよく思われたいらしいが、私のドイツ人の友達に普通は友達の前でげっぷをかましていた。半分ふざけていたのかもしれないが、生理現象でしかたがない部分もあるので、私もそこまで気にする必要はないかと思う。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

今年はクリスマスマーケットが相次いで中止になるなど、有名なイベントがほとんど皆無だった。したがってライプツィヒで過ごす時間が長かった。その分、ドイツ人の友達の家にいたりして過ごした。これはこれで良かったと思う。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

音楽を聴く
あまりごちゃごちゃ悩まずベットで横になる
1人の時間を作る
本を読む、など

5. その他

5-1. 留学先大学について

渡航前のメールのやりとりから、ライプツィヒ大学は、留学生を歓迎していると感じた。また日本学科があるので、日本人として現地の知り合いを作りやすかった。また総合大学なので、いろいろな学科があり、留学生はどれも原則自由に参加できた。総合的に見ると開かれた感じのする大学だった。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

ドイツは、東西で見ると、東の方が物価が安い。
また、日本学科がある大学は、日本学科生と仲良くなるメリットと、日本語に甘えてしまうというデメリットがあります。事前に確認し、どちらがいいか考えておくといい。
ライプツィヒから、ベルリンへのアクセスは良好で、1時間くらいで行けるが、北、西、南側の観光地へはかなりの距離があり、行くのが面倒だ。どの地域をたくさん訪れたいのかも、ひとつの指針として考えるといい。
現地では、DBという鉄道を使うより、Flixbus, Flixtrainのほうが安く移動できる。
定期的に、鉄道、飛行機のスライキがあるので、特に渡航前後は、スライキの予告がでてないかチェックした方がいいだろう。
鉄道はほぼ間違いなく遅延するので、高くてもできるだけ乗り継ぎのないプランで移動した方が、確実に目的につける。

5-3. 留学を終えて

他でもないドイツに行く意義はなんだろうか。それに答えると、ドイツ社会を流れている人生の感覚を、体感することではないかと思う。日本社会と比較して、やはりドイツ社会のほうが、自分で決定して人生を歩いていく雰囲気より強く持っている。大学生に関していえば、たとえば卒業の時期や就職の時期はひとそれぞれだ。学部在籍しながら、働きだす人もいる。長く大学に留まって、いろいろ思案している人もいる。皆に合わせなきゃ、という雰囲気はおろか、その合わせるべき「皆」がそもそも存在していない。こうした社会の雰囲気を経験し、私は少し楽になった。

似たような話になるが、留学中に、一度千葉大学のオンラインの留学相談会に、手助けで参加したことがある。そこで感じたのは、やはり他者に時期を決定されてしまう日本の学生の姿だ。(私自身学生なので、偉そうなことは言えないが、ここではあえて客観的に書く)留学相談会では、もちろんどの人も、留学に興味があるようだったが、多くの人が、卒業時期がずれること、あるいは就活の時期がずれることを気にしていた。これは少々もったいないことではないだろうか。当時の私はこのことについて、留学したいという思いを、社会的に定められた時期、のようなものが妨害しているのだと感じた。一応、その場では説明会にオンライン参加している人たちに、卒業時期を無視してでも留学にいったほうが、何か得られるものがあるのではないか、と伝えた。

こういう話は、なんの迷いもなく留学に突き進んでいける人には無用だろう。しかし、日本に暮らしていて、何か言語化できないもやもやがある場合、留学の経験は、それを解く鍵になってくれる。私は自分の体験も加味して言えば、留学を考える際に、悩みながらドイツに行く、という選択肢をもっともいいのではと考える。